2024 年 9 月 27 日号掲載
全国農業新聞

各地の話題
登米市

最北のアボカド～くん炭製造の排熱を有効利用～

登米市米山町の宮田建設株式会社では、くん炭の製造時に発生する排熱を利用したアボカド栽培に取り組んでいる。

同社は暗渠排水や圃場整備を請け負っており、大量のもみ殻を使用しているが、近年では工事件数の減少に伴い、大量のもみ殻の活用方法を検討していた。その一つに、くん炭製造を開始し、燻蒸による排熱を加温に利用できないかと考え、令和元年にアボカド苗２０本を購入し、施設栽培を始めた。

圃場は粘土質が強いため地植えせず、余った建築部材でポットを自作して定植。品種は耐寒性に優れる「ベーコン」や「メキシコーラ」を中心に７品種を栽培しており、昨年１１月と今年８月に合わせて１２０個を収穫した。同社代表取締役の佐藤安憲（やすのり）さんは「若木のうちは特に寒さに弱い。ハウス内がマイナス５℃以下にならいよう注意している。受粉にはミツバチを使用し、将来はハチミツの加工・販売も考えている」と話す。

現在はマンゴーやパイナップル栽培も試験しており、佐藤さんは「若者が農業に夢を持って挑戦し、農業所得が高められる事例を示したい」と語る。

【記事執筆】宮城県農業会議

佐藤代表とアボカドの木（ベーコン）

ハウス内の燻炭製造機

発芽育成の苗（同社社長室にて）